

## 「(国立台湾大学サマープログラム) 参加報告書」

京都大学医学部1年 井潤 佑紀

## 学習成果

今回の台湾大学への留学は私にとって、とても有意義なものであったと思います。4週間という限られた期間での滞在でしたが、非常にたくさんのもので得ることができたと感じています。まず、今回のプログラムは、京都大学以外の日本の大学や海外の様々な大学からの学生が参加していたことが、プログラムの充実につながったと思います。台湾の学生と交流して、台湾についての理解を深めることができるほかに、色々な国の学生と交流することができて、世界観が広がりました。

## 海外での経験

4週間で異国で過ごして一番印象に残ったことは、伝えようとする意識の大切さです。英語でも中国語でも、言葉に自信がないという理由で人とコミュニケーションをとらなくなりがちですが、それは大変もったいないように感じました。多少言葉が通じなくても、伝えようとする意識さえあれば人と交流できるということを学びました。伝え方よりも、相手を思いやって懸命に自分の言いたいことを伝えようとするの方が大切だと思いました。

## プログラム内容

プログラムはとても充実していたように思います。毎日午後に中国語の授業があり、その前後に台湾の文化を学ぶ授業がありました。フィールドトリップとして故宮博物館や歴史的な寺院の見学に行きました。午前には、台湾大学の学生が企画した、匂い袋作りや、書道、武術などの文化交流会もありました。一つとして退屈なものはなく、旅行では決して知ることができなかったような台湾の文化を知ることができて、とても有意義だと思いました。

## 進路への影響

台湾に留学し、現地の学生の意識の高さに驚かされました。台湾だけに意識を向けているのではなく、常に日本などの海外に意識が向いていることに日本人として危機感を持ちました。帰国後も、海外に常に目を向けている台湾大の学生のように、常に高い意識を持ち続けたいと思いました。また、今回の台湾滞在中、台湾の人々のあたたかい歓迎に迎えられたことから、将来はその恩返しとして、日本と台湾をつなぐ橋渡しの一部でも担えるようになりたいと思うようになりました。最後に、今回の留学にあたり、様々な人に支えられたことに改めて感謝したいと思います。